

# 一族



実業家  
**ロパーヒン**  
八嶋智人

“桜の園”の農民の子だったが、時代の波に乗り、商人として成功。農民の子であるにもかかわらず優しく接してくれたラネーフスカヤの事を慕っている。



地主  
**ピーシチク**  
市川しんぺー

時代の変化についていけず、ガーエフ同様、領地は借金の抵当に入り、利子の支払いに四苦八苦。他力本願の一攫千金を夢見る。



学生  
**トロフィーモフ**  
成河

事故で亡くなったラネーフスカヤの息子グリーシャの家庭教師。知識人として来たるべき新しい時代とその思想に大きな期待を抱く。



兄  
**ガーエフ**  
松尾貴史

ラネーフスカヤの兄。国外で暮らすラネーフスカヤに代わって“桜の園”を任されていたが、経営の才がなく、暮らしぶりを改めることもできず、負債は膨らむ一方。



女主人  
**ラネーフスカヤ**  
原田美枝子

“桜の園”の女地主。6年前に幼い息子と夫を亡くしたショックで領地を離れ、フランスで恋人と暮らしていた。自身と恋人の浪費によって資産を使い果たし領地の“桜の園”が競売にかけられると聞いてロシアへ帰国する。



養女  
**ワーリヤ**  
安藤玉恵

ラネーフスカヤが国外に出たため、伯父のガーエフと“桜の園”の留守を預かり家を取り仕切る。ロパーヒンとの関係を噂されている。



娘  
**アーニヤ**  
川島海莉

“桜の園”を離れた母ラネーフスカヤを往復5週間かけてパリから連れて帰る。その後、トロフィーモフの説く新思想に触れ、自立を考えるようになる。

# 使用人



メイド  
**ドゥニャーシャ**  
天野はな

エビホードフから結婚を申し込まれていたが、ラネーフスカヤと共にパリから帰って来た幼なじみのヤーシャに心を惹かれる。



管理人  
**エビホードフ**  
前原滉

まじめな人柄だが、何かにつけて失敗するため、皆からは「世界でいちばん運のない男」と呼ばれている。ドゥニャーシャに好意を寄せている。



若い召使い  
**ヤーシャ**  
豎山準太

パリで暮らしていた時からラネーフスカヤに使っている若い召使。“桜の園”に戻るラネーフスカヤに付き添ってこの村へ帰ってきた。



家庭教師  
**シャルロッタ**  
川上友里

若きアーニヤの一人旅を心配したワーリヤが、パリへの旅に付き添わせる。おしゃべり好きで手品が得意だが、家庭教師が務まる素養はない。



老召使  
**フィールス**  
村井國夫

古くから“桜の園”に仕え、今も変わらずガーエフの世話を焼く昔気質の召使。ラネーフスカヤが“桜の園”に帰ってきたことを喜ぶ。